

# 赤ちゃんがいる時、災害が起こったら...

## 12月から妊産婦向け講座を初のオンラインで

市は、妊産婦向けの講座を12月22日(火)に初めてオンラインで開催する。内容は赤ちゃんがいる時に災害が起こった時の必要な備えや心構えについてなどで、市では、講座のほかにもオンラインによる妊婦相談も実施している。担当者は「コロナ禍でも妊産婦や家族の不安や悩みに寄り添える取り組みを進めていきたい」と話している。オンライン講座は大阪府と包括連携協定を結ぶ㈱江崎グリコが協力する。

- ★市は、妊産婦やその家族向けの講座を保健センターなどで定期的に行ってきたが、コロナ感染が拡大した4月以降はほぼすべてを中止せざるを得ない状況となった。感染の収束が見込めない中、母子保健担当課ではオンラインを活用した取り組みの準備を進めてきた。
- ★今回初めてオンラインで実施する講座は「ひらかた de オンライン産前産後クラス」。妊産婦とその家族を対象とした健康教室で、出産準備編として「①栄養・歯科・育児物品」「②家族の心構え」、産後の育児編「③みんなで子育て」の3プログラムで構成。3つのうちいずれかを月1～2回開催していく予定。②③は大阪府と連携協定を結ぶ㈱江崎グリコとの協働事業。
- ★12月22日の第1弾となる③「みんなで子育て」では、「赤ちゃんからの防災」と題し、産後早期に必要な災害の備えについて知ってもらう。市が妊娠届出と1歳6か月児健康診査の際に実施したアンケートで「赤ちゃんがいる時に災害が起こったらどうすれば良いのか、情報が少なく不安」という意見が多かったことから、初めて災害をテーマに取り入れた。避難用バッグに不可欠な物品をはじめ、江崎グリコが日本で初めて開発した乳児用液体ミルクの活用法などについて、市の保健師や同社の社員(子育てアドバイザーの資格を持った栄養士)が分かりやすく教えてくれる。
- ★22日の講座ではこのほか、妊娠期から子育てまでの間で大切にしたい夫婦のコミュニケーションを促進するため江崎グリコが開発したオンライン子育て支援サービス「Co 育てプログラム」のほか、福井大学が提唱する概念「マルトリートメント(避けたいかかわり。略して「マルトリ」)予防」についても紹介する。これは、「手をたたく・怒鳴る」といった親から子どもに対する何気ない行為が子どもの脳の発達に影響を及ぼしてしまう「マルトリ」であることを広く知ってもらうというもの。市は大阪府、豊中市とともにマルトリ予防に関する教材開発に協力。孤立しない子育て支援に役立てていく。
- ★「マルトリ予防」については、11月16日11時から福井大学子どものこころの発達研究センター友田明美教授が記者説明会で報告を予定しており、枚方市関係者も同席する。
- ★第1弾の12月22日(火)の対象は生後2ヶ月～6ヶ月頃の乳幼児を育てる母親とその家族。参加無料で定員15組。12月3日から保健センターホームページで予約を受け付ける。また、ビデオ通話による妊婦対象のオンライン相談も10月から予約制で開始している。

<お問い合わせ> 健康福祉部 地域健康福祉室母子保健担当(保健センター内)  
電話 840-7221、ファクス 840-4496